

日本図書館研究会 2025年度決算報告・2026年度事業計画予算案

2026年度事業計画等の 提案にあたって

理事長 原田 隆史

2026年に入っても、社会の各所で「信頼」という基盤が揺らぐ状況が続いています。国内においては制度運営に対する不信や、情報の真偽をめぐる混乱が日常的に語られるようになり、国際的にも分断や対立が固定化する中で、共通の前提を見出すこと自体が難しくなっています。さらに、経済の不安定さや物価の変動といった問題も、単なる数値の問題にとどまらず、それを支える制度や説明への信頼と密接に結びついているように見えます。

こうした状況において特徴的なのは、「情報が不足している」のではなく、「情報が過剰に存在している」にもかかわらず、それをどのように受け取るべきかの判断基準が共有されていない点にあるように思います。多様な媒体や経路を通じて膨大な情報が流通する一方で、それぞれの情報の位置づけや信頼性をどのように評価するかについての合意は弱まりつつあります。その結果として、人々は情報そのものではなく、それを発信する主体や、自らが属するコミュニティへの信頼に依拠して判断せざるを得ない場面が増えていると考えられます。

このような環境の中で、図書館が果たすべき役割は、単に情報を提供することにとどまるものではありません。むしろ、どのような情報がどのような過程を経て整理され、どのような根拠に基づいて提示されているのかを可視化し、利用者が判断するための枠組みを支えることが重要です。情報の量が増え続ける社会においては、「何があるか」以上に「それをどのように位置づけるか」が問われているといえるでしょう。

また、信頼は一度確立されれば維持されるもので

はなく、日々の運用や説明の積み重ねによって支えられるものです。図書館における資料選択、整理、提供の各過程は、その意味でいずれも信頼の構築に関わる行為であり、個別の業務の質がそのまま図書館全体の信頼性に直結します。このように考えると、図書館の活動は従来以上に慎重かつ透明性の高いものとして再構成していく必要があります。

図書館がこうした役割を果たし続けるためには、図書館自身が社会から信頼される存在であることが前提となります。個々の業務の積み重ねが図書館への信頼を形成するとすれば、図書館という制度そのものが社会の中でどのように理解され、どのように評価されているのかは、その信頼の基盤に関わる問題であるといえるでしょう。

◇ ◇ ◇ ◇

さて、日本図書館研究会の活動について申し上げます。昨年までと同様になりますが2025年度においても、本会の財政状況は引き続き厳しい状態にあります。会員数についても減少傾向が継続しており、組織基盤の安定化は喫緊の課題です。

昨年度に引き続き、理事会においては、活動の質と水準を維持しつつ、無駄な支出を抑えるための方策について引き続き検討を重ねるとともに、事業運営の効率化や情報発信の強化、刊行物のバックナンバー公開など、限られた資源の中で実行可能な改善を継続してきました。これらの取り組みは本会の活動を支える基盤として、今後も引き続き重要であると考えています。

しかしながら、こうした個別の改善の積み重ねのみで現在直面している課題に十分に対応できるかといえ、必ずしもそうではありません。会員数の減少という現実、財政上の問題にとどまらず、本会の活動に対する理解や関心が過去と比べて十分に広がっていないと言いつても言い難い状況を示しています。活動の意義や価値が共有されなければ、その基盤となる人や組織の維持が難しくなることは避けられません。本会の活動をどのように位置づけ、どのような意義を持つものとして社会に開いていくのかという点について、より踏み込んだ検討が必要な段階にあると認識しています。

こうした認識のもと、理事会においては、従来の取り組みを継続する一方で、それにとどまらない形での見直しを進めています。どのような活動が現在の会員にとって実質的な意味を持つのか、また本会の活動理念は何であるのかといった、これまで必ずしも明示的に問われてこなかった問題についても、改めて整理し直す必要があると考えています。創立当初と比較して、社会の状況も図書館を取り巻く環境も大きく変化しており、本会自身のあり方についても、その前提から見直していくことが求められているといえるでしょう。一定の方向性を見出すべく検討を進めており、必要な見直しについては順次具体化していく考えです。

会員の皆様からのご意見もいただきながら、本会の活動の意義を改めて問い直し、より多くの方にとって意味のある活動として再構成していきたいと考えています。以下に掲載する事務局長および各委員長、担当からの提案説明、事業計画、予算案などの内容を検討していただき、本会の活動の方向性についてご意見を賜うことができれば幸いです。本年は設立から80年を迎える年です。これから100年に向けた歩みの中で、本会の活動をどのように継承し、発展させていくのかは、会員の皆様とともに考えていくべき課題です。今後ともご理解とご協力をお願い申し上げます。

(はらだ たかし 八洲学園大学)

事業計画・予算案の提案説明

事務局長 前川 敦子

2025年度決算、2026年度事業計画・予算案について、例年と異なる部分を中心に説明します。

1. 2025年度決算報告

一般会計《収入》では、当会の収入源である「会費」「『界』売上げ」はほぼ予算通りでした。ただし会員数の漸減傾向は継続しており、大きな課題であ

ることに変わりません。「広告料」は予算計上していた単発広告の入金が遅れたため予算額より少なくなりました。「雑収入」として、23-24年度研究グループ助成金が決算後に返金されたもの(3グループ4.8万円)を含めました。また他団体による定期的な事務所使用料があり、同費目に含めています。「利息」は近年の金利上昇に伴い増額となりました。

この結果、《収入》全体の決算額は、当初予算から微増(5.5万円増)となりました。

次に一般会計《支出》です。

「会合費」「交通費」は、理事会・委員会会議をオンライン併用とすることで予算を下回りました(計28.5万円)。「研究助成費」では5年ぶりのブロックセミナー開催により予算を執行できました。

「組織強化費」は在庫パンフレットを用いた広報のみに留まり、新たな予算執行を行えませんでした。また「国際交流費」も今年度は特段の事業を実施せず、予算が未執行となりました。「事務局費」は、最低賃金改定による時給値上がり等により、予算超過となりました。

この結果、《支出》全体の決算額は当初予算を117万円下回りました。ただし繰越金・繰入金を除く単年度収支を見ると、収入713万円に対し支出797.9万円、84.9万円の赤字となっています。選挙等の特別な支出がない年度にも関わらず単年度収支が赤字であり、またこの傾向は近年継続しています。会員数の漸減により恒常的な赤字構造となっていることは、当会の大きな課題です。

特別会計【出版関係】に移ります。《収入》すなわち刊行物売上は計904千円、ほぼ予算どおりの堅調な額でした。なお今回より特別会計の収入計上方法を変更しました。これまでは取次2社(日販・楽天)については売掛金(後日入金)を含む「売上額ベースの計上」を採用していましたが、実際の入金額と異なり管理が煩雑であることから、他の業者と同様に「入金額ベース」での計上に変更しました。また決算報告・予算案には参考として各タイトルの売上金額・部数を示していますが、売上金額には売掛金を含み、また入金額には過年度売上分への入金も含まれるため、両者の合計は一致しません。

特別会計《支出》では、「『界』週及的電子化のための調査費」として計上した「出版調査費」は、テスト作業部分を完了し一部執行しました。J-STAGE 登載等は未完了であるため、残予算を26年度に持ち

越し作業を継続します。また「出版印刷費」のうち『情報資源組織法別冊実例集』（20万円）も次年度に持ち越しました。

また、今回の収入計上方法の変更（売上額ベースから入金額ベース）により、売掛金部分の収入計上が二重計上になることから、変更初年度に当該部分の精算処理として33.2万円を計上しています。

上記の他、第3特別会計への繰出し700万円を含めた《支出》は計801万円、26年度への繰越金が1,161万円となりました。

第2特別会計【図書館研究奨励賞基金】は、25年度は1件の授与があり、計11万円を支出しました。第3特別会計への繰出し700万円と併せ、次年度繰越金は322万円となりました。

第3特別会計【活動活性化・運営調整基金】は、一般会計への繰出し60万円（運営調整目的）を行い、次年度繰越金が1,340万円となっています。

2. 2026年度事業計画(案)

事業計画(案)は多くが恒常的事業であり、今年度の変更点を中心に説明します。

「図書館学セミナーの開催」について今年度はなしとしました。従前より国際図書館学セミナー日本開催年（3年に1度）は図書館学セミナーを休みとしていましたが、国際図書館学セミナーが2023年度をもって休止した後、直ちに図書館学セミナーを毎年開催することとはせず、今後の図書館学セミナーのあり方について研究委員会を中心に検討を行います。

「15. 持続可能な日図研活動体制の検討」を新たに事業計画として挙げています。この数年来検討し、研究大会等でもご報告している組織体制の問題、及び決算報告にも挙げた財政見直しの問題、それらの基となる日図研のミッション・目標、日図研はどのような活動を目指すのかという課題に沿った検討を示しています。会員の皆様とともに検討を進めてまいりたいと考えています。

また組織体制の見直しは検討中ではありますが、「16. 役員選挙の実施」として、現役員が任期を終える2026年度末までに、役員選挙を現会則に則って実施します。

3. 2026年度予算(案)

25年度予算編成時に、特別会計【出版関係】・第

2特別会計【図書館研究奨励賞基金】から各700万円を繰入れ、新たに第3特別会計【活動活性化・運営調整基金】を新設しました。従来は特別会計から繰出していた「役員選挙費」や『界』450号文献レビュー特集号「雑誌刊行費」、その他一般会計の収入不足補填は、第3特別会計から一般会計に繰出す形となりました。これをふまえ、26年度予算案についてご説明します。

一般会計《収入》の中心である「会費」は、会員減に基づき個人会員・団体会員とも25年度より件数を減らして予算化しました。

「雑収入」はすでに収入が確実な2件（25年度研究大会への同志社大学助成金、事務所定期使用予約）を反映して増額しています。「利息」も25年度実績をもとに上積みしました。

《支出》は節減可能な費目ではできるだけ抑えて予算を立てていますが、必要な活動経費及び一定の予備費を確保する必要から、運営調整のため75万円を繰入れます。また『界』450号特集・役員選挙・パソコン更新等、今年度特別支出に265万円、ブロックセミナー・研究大会の充実による活動活性化を目的として研究助成費増額に40万円充てるものとして、計380万円を**第3特別会計【活動活性化・運営調整基金】**から繰入れます。

一般会計《支出》では、諸会議のオンライン化推進による「交通費」節減、先に上げたブロックセミナー・研究大会「研究助成費」増額、『界』450号特集への雑誌刊行費増額が今年度支出の特徴となります。また理事会での検討の結果、今回の役員選挙はオンラインではなく従来の郵送選挙とすることにしました。名簿作成方法の見直しにより予算は減額し、またオンライン選挙は引き続き目標として検討します。

上記の結果、予備費を除く**一般会計《支出》**合計は1,194万円となります。上述の通り第3特別会計からの繰入金380万円を繰入れた額となります。

次に**特別会計【出版関係】**です。《収入》では『情報資源組織法』の着実な売り上げ等、昨年度実績を基にした案となっています。同書は残部が少なくなったことから《支出》「出版印刷費」において『情報資源組織法』増刷、『実例集』印刷予算計188万円を計上しています。「出版調査費」では25年度未執行165万円を繰越し、『界』バックナンバー週及的電子化事業の今年度完了を目指します。

第2特別会計【図書館研究奨励賞基金】は《収入》《支出》とも例年と大きな変化はありません。

第3特別会計【活動活性化・運営調整基金】は、一般会計で前述の通り《支出》として一般会計への繰出し380万円を計上します。特別支出が特に多い年度とはいえ、すでに基金残額が1千万円を下回らざるを得ない状況となりました。財務中期計画策定を喫緊の課題として進めます。

* * * * *

繰り返しとなりますが、「持続可能な日図研活動体制の検討」とは、当会のミッションと会員のニーズに沿った活動活性化、活動を持続的・安定的活動を支える組織体制と財政基盤の構築を含みます。当会の活動活性化を考えるにあたっては、会員の皆様に参画いただくことが不可欠です。

ここに掲げた決算報告、事業計画・予算案の審議と承認は評議員会の役割ですが、会員の皆さんの声のできるだけ反映させたいと思います。メール、FAX等ぜひご意見をお寄せください。当会の運営や行事についての要望等も歓迎します。

送付先：日本図書館研究会事務局

Email：nittoken@ray.ocn.ne.jp

Fax：06-6225-2530

送付期限：2026年5月24日(日)必着

2026年度評議員会：5月31日(日)同志社大学

(まえかわ あつこ 関西外国語大学)

会員とともに歩む 『図書館界』を めざして

編集委員長 石川 敬史

伝統ある『図書館界』の重み、会員の皆様からのご期待、特集の企画・調整や書評・新刊紹介の依頼など——2023年4月に編集委員長という大役を拝命して以来、振り返りますと、どうしても眼前の作業に追われ、走りながら考え続ける3年間でありまし

た。毎年、多くの至らぬ点があったことと存じますが、会員の皆様にお支えいただきましたこと、ここに深く感謝申し上げます。

今期につきましても、経験と実績を有する編集委員の協力を得ながら、会員の皆様とともに、より充実した『図書館界』の編集に努めてまいります。今後とも『図書館界』へのご支援を賜りますようお願い申し上げます。

はじめに、昨年度(2025年度)の『図書館界』(77巻)の構成を報告いたします。

- ・《論文》3本
- ・《研究ノート》2本
- ・《現場からの提言》2本
- ・《特集・第66回研究大会》グループ研究発表6本、講演3本、報告2本、討議
- ・《特集・2025年度図書館学セミナー》基調講演1本、事例4本、討議
- ・《特集・誌上対話》「地域社会において公共図書館が担うべき役割と責任：実践と研究をつなぐ誌上対話」3本、誌上対話を読んで3本
- ・《解説・HOT TOPICS》「近年のメディアと情報の動向に対して図書館は何ができるのか？」3本
- ・《エコー》3本
- ・《書評》9本、《新刊紹介》4本
- ・《追悼》深井耀子さん1本

編集委員会は、2025年度も6回の会議を開催し、各号の編集状況の確認をはじめ、投稿論文の査読結果や、特集、書評、新刊紹介等の誌面構成の検討を重ねてまいりました。77巻におきましても、『図書館界』へご投稿いただいた会員の皆様、そして《特集・誌上対話》をはじめ、書評や新刊紹介への執筆依頼に快く応じてくださった皆様へ、改めまして御礼申し上げます。

続いて本年度の編集委員会の計画です。

1. 《論文》・《研究ノート》・《現場からの提言》

毎年ここに刻ませていただいておりますが、『図書館界』の核は、何よりも会員の皆様による研究や実践に基づいた投稿論文です。『『図書館界』原稿種別の定義』のうち査読の対象になる原稿種別は、《論文》、《研究ノート》、《現場からの提言》となります。昨年度の2025年度に投稿いただいた本数は7本でした。このうち採録(今後の掲載分も含む)は3本、

査読中等(3月末現在)は2本、《エコー》への改稿1本でした。実践的な報告・提言である《現場からの提言》への投稿につきましては、2024年度に引き続き2025年度も複数の投稿をいただきました。

本会の特長は、「館種をこえた会員構成」であり、「研究と実践の往還」といえます。『図書館界』は、教育・研究はもとより、会員の皆様の問題意識の共有、図書館現場における報告・調査研究の発表の場でもあります。『図書館界』は査読を伴いますので、敷居が高いという印象をお持ちの会員もいらっしゃると思いますが、編集委員一同、引き続き会員の皆様による積極的な投稿をお待ちしております。

なおこの間、他の学協会を参考にしながら、会員が投稿前に確認いただくことができる「チェックリスト」の検討を重ねてまいりました。この「チェックリスト」は2026年度中の公表を予定しています。

2. 特集・連載

2026年度の『図書館界』における特集・連載については、①誌上対話、②解説 HOT TOPICS、③研究大会の報告の3点が中心になります。

まず《特集・誌上対話》につきましては、2023年度(75巻3号)より「地域社会において公共図書館が担うべき役割と責任：実践と研究をつなぐ誌上対話」としてスタートいたしました。昨年度は3本の論考に加え、この間の「誌上対話」へのご意見やご感想を1,000～1,500文字前後でお寄せいただける「誌上対話を読んで」を新設し、3本の投稿をいただきました。《特集・誌上対話》の主旨や論点については、75巻3号(2023年9月)や76巻4号(2024年11月)に、中間的な報告が77巻2号(2025年7月)に掲載しております。ご参照いただきまして、会員の皆様による積極的な投稿をお待ちしています。

次に「解説 HOT TOPICS」につきましては、2020年度に開始し、今期で7年目を迎えます。2026年度は、図書館・学校図書館の運営の充実に関する有識者会議による報告書「図書館が拓く未来の学びと地域社会」(2026年3月)をいかに読むか、をテーマに構成する予定です。

最後に、研究大会の報告です。本年度の2号(7月)にシンポジウム「メディア情報リテラシー：フェイクニュース等に対して図書館で何ができるのか」(2026年3月8日開催)の記録を掲載する予定です。

3. 《書評》・《新刊紹介》・《エコー》

昨年度の2025年度は、《書評》9本、《新刊紹介》4本を掲載いたしました。多様な書き手の発掘を意識しつつ、「図書館・図書館情報学及び関連領域」に関する書籍等をこれまで通り掲載していきたいと考えています。編集委員会より執筆依頼がありましたら、ご協力をよろしくお願いいたします。もちろん投稿も歓迎です。

《エコー》につきましては、昨年度3本の掲載となりました。『『図書館界』原稿種別の定義』にて、「日本図書館研究会への意見・感想・要望、質問、また図書館界に関する話題・情報提供など、会員からの声を表明する場とする」としています。情報提供や会員間の意見交換の場としてご活用ください。

なお、『『図書館界』原稿種別の定義』において、《書評》と《新刊紹介》が同一の原稿種別に位置づけられていました。この間、編集委員会で検討を重ね、《書評》と《新刊紹介》とを区分した『『図書館界』原稿種別の定義』を2026年度中に改訂する予定です。

4. 450号(78巻3号：2026年9月)について

2026年9月(78巻3号)に『図書館界』は450号を迎えます。前回の400号(2018年5月)と同様に、50号毎(約8年半)の文献レビューという方法を用いて、図書館界の動向や課題、展望を提示することを目的とします。テーマは、《特集・誌上対話》が展開されていることを念頭に、「図書館・図書館学の発展：実践と研究のパスペクティブ」といたしました。昨年度より編集委員会・理事会において、構成や執筆候補者の検討を重ねてまいりました。450号には多くの執筆者のご協力をいただくと同時に、編集委員の総力によりまして編集作業を進めてまいります。

『図書館界』の編集委員は、図書館に勤務する会員や大学教員の会員から構成されています。編集委員一同、日常の本務を担いながら編集業務にあたっておりますが、年6回刊行の『図書館界』のさらなる充実に向けてまいります。引き続きまして会員の皆様からのご支援を賜りたく、重ねてよろしくお願い申し上げます。

(いしかわ たかし 十文字学園女子大学)

研究委員会の 主な事業について

研究委員長 日置 将之

会員の皆様のご協力により2025年度も事業を無事終えることができました。今後も当会ならではの研究事業を実施したいと考えておりますので、引き続きご協力をお願いいたします。

以下、会員間の研究成果の発表・交流・学習等の場として、研究委員会が今年度担当する主な事業をご紹介します。

1. 研究大会の開催

2026年度(第68回)研究大会は、2027年2月～3月頃に2日間の日程で開催する予定です。例年と同様、1日目は個人会員と研究グループの研究発表を行い、2日目のシンポジウムは図書館に関する重要なテーマを設定して論議を行いたいと考えています。

大会のお知らせは、本誌78巻3号(9月)に個人発表等の募集を、4号(11月)に大会予告を、5号(1月)に正式な大会案内を掲載する予定です。また、本会のウェブサイトやXアカウント等でも随時ご案内します。

2. 研究例会の開催

日常的な研究・活動報告の場として年間8回程度開催しています。会員・非会員を問わず参加可能とし、広く開かれた形での開催です。発表に関心があるの会員はぜひご連絡ください。なお研究グループは、研究成果の公開を、研究大会のほか、研究例会での発表で行うことも可能です。なお、今年度は、評議員会の開催時間が拡大される予定のため、特別研究例会は休止いたします。

3. 図書館学セミナーについて

図書館学セミナーは、時流に沿った関心の高いテーマを設定して討議する場として開催していますが、今年度は開催を予定しておりません。このセミ

ナーについては、実施方法の変更等について現在検討しています。2027年度以降には何らかの変更が生じる見込みですので、その際にはお知らせいたします。

4. グループ研究への助成

会員の皆様は、地域又は研究テーマごとに研究グループを組織することができます。また、会員7名以上から構成される研究グループについては、研究委員会で審査し、理事会での承認を得た上で、原則として年3万円を2年間にわたり助成しています。助成を受けた研究グループには、研究大会や研究例会、本誌誌上などでの研究成果の報告をお願いしています。研究グループの参加は全ての会員に開かれていますので、既存研究グループへの参加や新たな研究グループの結成については、各研究グループの連絡先や研究委員会にご相談ください。

5. お願い

研究大会・例会等のテーマや発表者についてご希望がありましたら、研究委員会までお知らせください。また、研究大会・例会等の講師のお願い・会場提供のご相談をさせていただくことがありますので、ご協力のほど、よろしく願いたします。

研究活動の発展には会員の皆様のご指導が必要不可欠です。引き続き、皆様のご協力をお願いいたします。

(ひおき まさゆき 大阪府立中央図書館)

図書館研究奨励賞

未完であっても可能性のある
研究者を支援します

図書館研究奨励賞選考委員会
委員長 常世田 良

日本図書館研究会図書館研究奨励賞は、故森耕一理事長が設立された基金によって1990年より30年以上にわたり運営されてきました。賞の名称にあるように「研究」の方向性、意義等を評価して「奨励」することが目的ですので、論文そのものの完成度を

評価するのではなく、若手研究者、あるいはこれまで研究結果の公表機会に恵まれなかった方、またアカデミックな環境にある方々のみならず図書館現場で勤務されている方々など、いわゆるベテラン研究者以外の方々の「研究」内容を評価対象といたします。

具体的には日本図書館研究会の機関誌『図書館界』において査読を経て掲載された「論文」、「研究ノート」、「現場からの提言」が評価対象となります。学術論文としての体裁が考慮されない「研究ノート」、「現場からの提言」が評価対象となるのは前述の同賞のコンセプトによるためです。特にベテラン研究者以外の若手・中堅の書き手に注目し、その「研究」が有する伸びしろや図書館界を刺激する新鮮な要素を見出す役割を持ちたいと考えています。当該研究分野の発展性に寄与できる可能性を尊重し、賞を贈るという役目を担いたいと思います。

そのためには活発な投稿が必要となります。研究者はもちろんのこと、各種の図書館現場において日々の図書館活動に邁進されている方々は、往々にして多忙で時間に余裕がないと思われそうですが、何とか著作に勤んでいただきたいと考えます。特に若手の方々に期待いたします。コロナ禍を経て、あるいはデジタル化の進捗で、われわれ図書館関係者は図書館のサービスの在り方に見直しが必要だという事実を突き付けられています。利用者を支え、また利用者に支えられる図書館界に生きる図書館関係者である会員の皆さまからの『図書館界』への投稿の増加を望みます。

奨励賞を授与させていただくことにより未来の研究や職場での実践に後押しができることになれば、こんな嬉しいことはありません。可能性のある研究者に図書館研究奨励賞を贈り、皆様とともに授賞者を讃えることを楽しみにしたいと思います。

当委員会の活動スケジュールは、例年通り概ね以下のとおりです。

5月『界』5月号 前年度授与報告、年間予定掲載
7月第3回理事会にて、選考委員会構成(外部委員含む5名)の承認

11月『界』11月号に、案内記事掲載、自薦、他薦募集開始

12月推薦締切

1月委員の評価締切、候補者決定

2月理事会において「受賞者」承認

2月あるいは3月研究大会初日、委員長から選評報告、理事長より奨励賞表彰状、副賞10万円(佳作の場合5万円)授与、受賞者挨拶

今年度(2026年度)の選考対象は、『図書館界』2024年11月号(76巻4号)から2026年9月号(78巻3号)までに掲載されたもの(詳細については、研究会ホームページ「図書館研究奨励賞」を参照)。

(とこよだ りょう)

ブロックセミナー2026

ブロックセミナー担当
川崎 千加・谷合佳代子

昨年度は5年ぶりのブロックセミナーを熊本県で開催できました。九州ブロックの評議員や開催地の熊本県立図書館のご尽力による成果と言えます。今年度も開催希望が寄せられるものと期待しています。

ブロックセミナーは会員の希望によって開催されます。これまでのセミナーでは、会員のみならず住民や市民団体が参加されるなど、地域と図書館を考える機会ともなってきました。研究者と現場の図書館員が共に図書館について語れる、様々な館種の会員が参加していることも日図研の特色です。各地域で気軽に足を運んで、図書館をテーマに議論できる場を設ける。最新の研究成果に接することができる講演会を開催する。普段の研究や活動の成果の発表の場を設け、地域の図書館関係者と共有したいなど、企画については、担当理事の川崎・谷合がご相談に応じます。まずは気軽に事務局あてにご連絡ください。

日図研は組織改革に取り組んでいますが、各地域での研究活動に役立つ事業は今後も重要なものと考えられます。人との繋がりや研修は図書館員にとって大切なものです。ブロック単位では広すぎて難しいという声も聞きます。対面開催が難しい地域では、オンラインでの開催も可能です。各地域の図書館や図書館に関わる人々との交流の場、図書館について考え、語り合う場が持たれ、各地の図書館の活動が

活発になることを願っています。

ブロックセミナーの開催要項等の詳細はホームページに掲載しています。

<https://www.nal-lib.jp/block-seminar/>

連絡先：日本図書館研究会事務局

電話：06-6225-2530

(月・木曜13時～17時)

E-mail：nittoken@ray.ocn.ne.jp

(かわさき ちか 京都産業大学)

(たにあい かよこ エル・ライブラリー(大阪産業労働資料館))



◆新入会員紹介◆

- 5587 田野倉知士 明星大学
 5588 秋山美和子 高崎健康福祉大学
 5589 木下 通子 オフィスみちねこ
 5590 小池ひろみ 松山市立中央図書館
 5591 東 佳栄 奈良教育大学附属中学校
 5592 橘 みちほ 桃山学院大学・公財) 日本女性
 学習財団
 5593 加藤 湊人 筑波大学

留学生への『図書館界』 無料頒布について

本会では、図書館情報学を学ぶ大学院留学生に『図書館界』の無料頒布を行っています。国際交流の一環として、図書館研究や図書館の理解に役立ててもらいたいという趣旨です。

2026年度も下記の要領で実施しますので、該当者は、大学院の指導教員を通じて本会事務局までお申し込みください。大学院生を指導される教員で該当する院生がおられる先生は、院生に声かけのうえ、本会にご連絡ください。

記

- 1) 対象者は、日本で図書館情報学を学ぶ大学院留学生で、向こう1年間の在学や研究が確定している者です。
- 2) 申込は、本会の会員である指導教員よりお申し込みください。
- 3) 『界』各号を当該留学生に直接送付します。2026年度は『界』78巻1号～6号(2026年5月号～2027年3月号)です。
- 4) 所定の申込用紙やその他の詳細については、本会事務局(下記)までお問い合わせください。

E-mail：nittoken@ray.ocn.ne.jp

◆新しい会員をお待ちしています◆

図書館の現場で働いておられる皆さま、図書館情報学の教育・研究に携わっておられる皆さま、日本図書館研究会(日図研)に入会しませんか?入会されると、本誌『図書館界』の送付のほか、本誌への投稿資格、研究大会等の参加費の割引なども得られます。

また、会員の方は、身近におられる方にぜひ入会をお勧めください。

●年会費

個人会員 5,000円 学生会員 3,000円

(学生会員は有職者を除きます)

●入会手続き

本会ホームページの入会申込フォームをご利用ください。または、入会申込書をダウンロードして、メール等でお送りください。詳細は、<https://www.nal-lib.jp/invite-dl/>(入会のお申込み)をご覧ください。

●入会時特典

新入会時に、本会刊行図書のうちご希望のものを1冊贈呈します。(新刊を除く)

●申込・問い合わせ(事務局)

E-mail: nittoken@ray.ocn.ne.jp

Tel & Fax: 06-6225-2530

(事務局員在室は月・木曜13:00～17:00)

2025年度一般会計決算報告

《収入》

項 目	予 算 額	決 算 額	備 考
会 費	5,510,000	5,517,500	個人5,000円×621人=310.5万円(24年:17人, 25年:456人, 26年:146人, 27年:2人) 学生3,000円×8人=2.4万円 団体8,500円×281=238.85万円(24年:85, 25年:195, 26年:1)
『界』売上げ	1,250,000	1,215,500	6,800円×176=119.68万円 バックナンバー 抜刷代
広 告 料	264,000	220,000	
雑 収 入	20,000	111,516	寄附 事務所使用料(5万円) 研究グループ過年度分戻入(48,576円) 事務所コピー機使用料
利 息	30,000	65,066	定期預金 普通預金
小 計	7,074,000	7,129,582	
前年度よりの繰越金	1,761,032	1,761,032	
第3特別会計から繰入れ	600,000	600,000	
合 計	9,435,032	9,490,614	

《支出》

項 目	予 算 額	決 算 額	備 考
会 合 費	300,000	149,552	研究委員会 編集委員会
交 通 費	660,000	525,040	理事会 評議員会 特別研究例会 会計監査など
研 究 調 査 費	330,000	310,960	原稿料 研究グループ助成
研 究 助 成 費	775,000	536,659	研究大会・研究例会・図書館学セミナー ブロックセミナー 特別研究例会 Zoom アカウント
雑 誌 刊 行 費	4,300,000	3,668,940	76巻6号~77巻5号 J-STAGE 登載費
組 織 強 化 費	30,000	0	
印 刷 費	50,000	35,640	『界』送り状
国 際 交 流 費	30,000	0	
役 員 選 挙 費	0	0	
通 信 費	500,000	424,285	『界』郵送費 電話代・光回線 ハガキ等
払 込 料 負 担 費	10,000	5,373	業者払込料負担金 振込料
消 耗 品 費	50,000	45,373	プリンター用ラベル プリンターインク 布テープ ほか
事 務 局 費	2,115,000	2,277,011	人件費 交通費 事務所借用料 光熱水費 レンタルサーバ 長期火災保険 FAX 電話複合機 ゴミ処分券ほか
小 計	9,150,000	7,978,833	
予 備 費	285,032	0	
次年度への繰越金	-	1,511,781	
合 計	9,435,032	9,490,614	

※ 単年度収支(繰越金・繰入れ金を除く収入7,129,582円－支出7,978,833円) ▲849,251円

2025年度特別会計決算報告【出版関係】

《収入》

項目	予算額	決算額	備考
前年度よりの繰越金	18,712,928	18,712,928	
刊行物売上	920,000	904,058	日販195,962円、楽天294,408円、 Amazon132,638円 個人・生協等281,050円 ※25年度決算から入金額による計上に変更
合計	19,632,928	19,616,986	計576冊 904,058円

《参考・売上金額・冊数》*売上額合計は売掛金を含むため入金額合計とは一致しない。

情報資源組織法	800,000	832,088	529冊
塩見昇の学校図書館論	50,000	36,173	16冊
日本図書館研究会の75年	50,000	23,760	7冊
その他	20,000	73,169	24冊(ひかり号10、公立図書館の役割を考える3、図書館・図書館学の発展2、民主主義と図書館2、文化の使徒2、その他5)

*取次(日販・楽天)は売上額の一部が後年度入金(売掛金)となるため、売上額合計と入金額合計は一致しない。これまで日販・楽天は売上額で、Amazon・個人・生協等業者は入金額で収入計上していたが、2025年度決算から入金額での計上に統一する。

*利息は一般会計に一括して計上されている。

《支出》

項目	予算額	決算額	備考
出版編集会合費	20,000	0	
出版編集費	50,000	0	
出版印刷費	200,000	0	
出版調査費	2,200,000	550,000	「図書館界」電子化調査費用(一部完了を支払、残額と作業を次年度繰越)
通信費	200,000	123,977	書籍送付用宅急便 レターパック・切手
収入計上方法変更に伴う精算*	-	332,139	2024年度末売掛金残高相当額(*備考参照) 日販(40,333円) 楽天(291,806円)
第3特別会計へ繰出し	7,000,000	7,000,000	活動活性化・運営調整基金
小計	9,670,000	8,006,116	
予備費	9,962,928	0	
次年度への繰越金	0	11,610,870	
合計	19,632,928	19,616,986	

*日販・楽天は昨年度まで売上額による収入計上のため、売掛金分もすでに収入計上されている。入金額による収入計上に変更すると今後売掛金部分が入金された際、二重に収入計上されるため、変更初年度に相当額の精算処理を行う。

2025年度(第2特別会計) 決算報告【図書館研究奨励賞基金】

《収入》

項 目	予 算 額	決 算 額	備 考
前年度よりの繰越金	10,286,464	10,286,464	基金1,000万円
利 息	30,000	44,887	定期預金 普通預金
合 計	10,316,464	10,331,351	

《支出》

項 目	予 算 額	決 算 額	備 考
奨 励 賞 副 賞	100,000	100,000	1件：仲村拓真氏
事 務 費	5,000	9,508	丸筒 祝儀袋 賞状用紙(ストック分含む) 印刷代金
第3特別会計へ繰出し	7,000,000	7,000,000	活動活性化・運営調整基金
小 計	7,105,000	7,109,508	
予 備 費	3,211,464	0	
次年度への繰越金	0	3,221,843	
合 計	10,316,464	10,331,351	

2025年度第3特別会計決算報告【活動活性化・運営調整基金】

《収入》

項 目	予 算 額	決 算 額	備 考
特別会計(出版関係)より繰入れ	7,000,000	7,000,000	
第2特別会計(奨励賞)より繰入れ	7,000,000	7,000,000	
合 計	14,000,000	14,000,000	

※利息は一般会計に一括して計上

《支出》

項 目	予 算 額	決 算 額	備 考
一般会計へ繰出し	600,000	600,000	
予 備 費	13,400,000	0	
次年度への繰越金	0	13,400,000	
合 計	14,000,000	14,000,000	

2025年度監査報告

2026年3月28日、日本図書館研究会事務所において会計監査を実施しました。その結果は以下のとおりです。

- 1) 収入および支出に関する帳票・領収書類は、よく整理され、かつ記載事項に誤りがなく、会計事務は適正であると認める。
- 2) 財政に関しては、限られた収入の中で、事務局、理事会、各委員会など関係者による節約や工夫により適正な執行がなされている。個人会員・団体会員ともに長期にわたり漸減傾向が続いており、これに伴い会費収入も漸減傾向にある。現状は支出面での節減努力により「収支の均衡」がほぼ保たれているが、今後に備えて入会者の獲得や出版物の販売など、収入の確保に一層努力されるよう期待する。
- 3) 事務所にあるパソコンやプリンターについて、事務作業に支障が出ないように機器類の更新が必要である。
- 4) 本会活動の要である研究活動は、担当である研究委員会を中心に研究大会、図書館学セミナー、研究例会を通して現今の様々なテーマについて確実に実行されていることは評価される。今後も会員の希望するテーマに配慮するとともに、遠隔地の会員も参加できるようにオンライン開催にも積極的に対応していくことを期待す

る。

- 5) 昨年に引き続いての継続課題であるが、2019年度に「役員選挙制度検討委員会」として発足し、2023年度から「組織検討委員会」へと改組され、組織改革の検討が始まって7年が経過した。地域ブロック制や評議員のあり方など組織の根幹に係わる問題であり、理事会、評議員会など年間のスケジュールを十分に勘案しながら今期中(2025年度～2026年度)には具体の改革を目指していただきたい。
- 6) 2025年度特別会計予算に計上されていた『情報資源組織法別冊実例集』にかかる印刷費が未執行となった。見直しをもった予算の作成と『実例集』作成にかかる体制の整備が望まれる。
- 7) 2025年度より「活動活性化・運営調整基金」として第3特別会計が設けられた。この会計は「日図研の活動活性化や会員増につながる事業への積極的支出」を第一の目的としており、2026年度以降の予算編成にあたり目的に沿った予算編成、財政支出を期待したい。

以上、報告します。

2026年3月28日

監事 逸村 裕[Ⓔ]

監事 西村 一夫[Ⓔ]

決算報告、事業計画・予算案にご意見をお寄せください

本号掲載の2025年度決算報告、2026年度事業計画・予算案の審議・承認は評議員会の役割ですが、会員の皆さまの声を聴き、審議に反映させたいと思います。当会の運営や行事についてのご意見・ご要望でも結構ですので、ぜひそれらをメール・FAX等でお寄せください。

送付先：事務局 nittoken@ray.ocn.ne.jp

送付期限：2026年5月24日(日) 必着

評議員会日時：2026年5月31日(日)

12:00～16:30

〃 会場：同志社大学新町キャンパス

2026年度事業計画(案)

〈研究活動〉

1. 『図書館界』78巻1～6号の編集・発行(450号記念特集号を含む)
2. 第67回研究大会、研究例会の開催
3. ブロックセミナー等の開催
4. 図書館・図書館学関係図書のパブリケーション

〈研究の奨励と会の拡大に関わる活動〉

5. 地域における研究活動の支援
6. 障害者会員への対応
7. 図書館研究奨励賞の授与
8. 国際交流の推進
9. 会員・研究グループの研究活動への助成

10. 留学生への『図書館界』の無料頒布
11. 会員および購読者の拡大
12. ホームページの維持・更新
13. 『界』オープンアクセス事業(J-STAGE)の継続
14. 『界』バックナンバーのオープンアクセス化の実施

〈その他〉

15. 持続可能な日図研活動体制の検討
16. 役員選挙の実施
17. その他本会の目的にそった事業

2026年度一般会計予算(案)

〈収入〉

項目	25年度予算	26年度予算	備考
会費	5,510,000	5,442,500	個人 5,000円×615=307.5万円 学生 3,000円×10=3万円 団体 8,500円×275=233.75万円
『界』売上げ	1,250,000	1,190,000	6,800円×175=119万円
広告料	264,000	220,000	
雑収入	20,000	150,000	事務所使用料 寄附・カンパ 2025年度研究大会への助成金(10.9万円) 学術著作権協会配分金(1.6万円)
利息	30,000	60,000	定期預金・普通預金
小計	7,074,000	7,062,500	
前年度よりの繰越金	1,761,032	1,511,781	
第3特別会計から繰入れ	600,000	3,800,000	・特別支出 265万 (『界』特集220万 選挙30万 パソコン等買替15万) ・研究助成増額 40万(ブロックセミナー・研究大会) ・運営調整(予備費増額含む) 75万円
合計	9,435,032	12,374,281	

〈支出〉

項目	25年度予算	26年度予算	備考
会合費	300,000	300,000	研究委員会10万円 編集委員会20万円
交通費	660,000	610,000	理事会20万 評議員会40万円 会計監査1万円
研究調査費	330,000	380,000	原稿料18万円(450号含む) 研究グループ助成20万円
研究助成費	775,000	998,000	研究大会・研究例会・WS 67万円 ブロックセミナー30万円 セミナー・特別研究例会なし Zoom アカウント2.8万円
雑誌刊行費	4,300,000	6,400,000	8,800円×632頁×1.1=612万円 J-STAGE 搭載委託費2,850円×89件×1.1=28万円
組織強化費	30,000	20,000	
印刷費	50,000	50,000	『界』送り状 ほか
国際交流費	30,000	20,000	
役員選挙費	0	300,000	郵送料・名簿作成費
通信費	500,000	500,000	『界』郵送料 切手代 電話代 ほか
払込料負担費	10,000	10,000	業者払込料負担金 ほか
消耗品費	50,000	50,000	事務用封筒 プリンター用ラベル プリンター用インクボトル コピー用紙 ほか
事務局費	2,115,000	2,307,800	人件費1200円×6h×(10+2)日×12か月=103.7万円 交通費1500円×(10+2)日×12か月=21.6万円 事務所借用料6.5万円×12=78万円 光熱水費10万円 サーバルレンタル料2.5万円 パソコン等更新 15万円
小計	9,150,000	11,945,800	
予備費	285,032	428,481	手話通訳10万円 ほか
合計	9,435,032	12,374,281	

2026年度特別会計予算(案)【出版関係】

《収入》

項 目	25年度予算	26年度予算	備 考
前年度よりの繰越金	18,712,928	11,610,870	
刊 行 物 売 上	920,000	800,000	26年度より入金額により計上
合 計	19,632,928	12,410,870	

(参考:売上金額・冊数) *売上額合計は売掛金を含むため入金額合計とは一致しない。

情報資源組織法	800,000	700,000	昨年度売上529冊 残部591冊
日本図書館研究会の75年	50,000	30,000	昨年度売上16冊 残部295冊
塩見昇の学校図書館論	50,000	20,000	昨年度売上7冊 残部193冊
そ の 他	20,000	50,000	昨年度売上 計24冊

※利息は一般会計に一括して計上されている

《支出》

項 目	25年度予算	26年度予算	備 考
出版編集会合費	20,000	20,000	
出版編集費	50,000	350,000	情報資源組織法増刷分転載料(JLA)ほか
出版印刷費	200,000	1,880,000	情報資源組織法増刷 150万円 情報資源組織法別冊実例集 38万円
通信費	200,000	200,000	刊行物送料 ほか
出版調査費	2,200,000	1,650,000	『界』週及的電子化(Vol. 1-50)委託費 (前年度未完了分を予算繰越し・継続作業)
第3特別会計へ繰出し	7,000,000	0	
小 計	9,670,000	4,100,000	
予 備 費	9,962,928	8,310,870	
合 計	19,632,928	12,410,870	

2026年度第2特別会計予算(案)【図書館研究奨励賞基金】

《収入》

項 目	25年度予算	26年度予算	備 考
前年度よりの繰越金	10,286,464	3,221,843	基金300万円
利 息	30,000	15,000	定期預金・普通預金
合 計	10,316,464	3,236,843	

《支出》

項 目	25年度予算	26年度予算	備 考
奨 励 賞 副 賞	100,000	100,000	
事 務 費	5,000	5,000	
第3特別会計へ繰出し	7,000,000	0	
予 備 費	3,211,464	3,131,843	
合 計	10,316,464	3,236,843	

2026年度第3特別会計予算(案)【活動活性化・運営調整基金】

《収入》

項 目	25年度予算	26年度予算	備 考
特別会計より繰入れ	7,000,000	0	
第2特別会計より繰入れ	7,000,000	0	
前年度よりの繰越金	0	13,400,000	
合 計	14,000,000	13,400,000	

※利息は一般会計に一括して計上されている

《支出》

項 目	25年度予算	26年度予算	備 考
一 般 会 計 へ 繰 出	600,000	3,800,000	・特別支出 265万(『界』特集220万 選挙30万 パソコン等買替15万) ・活動活性化(研究助成費増額) 40万 ・運営調整費 75万円(予備費増含む)
予 備 費	13,400,000	9,600,000	
合 計	14,000,000	13,400,000	